



本年度社員総会で、社員総会の開催日について「企業内診断士の会員諸氏でも参加しやすい土日・祝日開催を検討してどうか」とのご意見をいただきました。そこで、総務委員会では、来年度以降の社員総会開催日についてのご意見を伺いました。その結果、総数86件のご回答を頂きました。その内訳は、平日開催: 27件、土曜日開催: 27件、日曜・祝日開催: 14件、いつでもよい30件、その他: 1件となりました(なお、複数回答が可能なため、各

回答の累計数が回答者数を上回っています)。本結果を踏まえての理事会での協議の結果、来年度社員総会は「従来通りに平日に開催する」ことになりました。アンケートにご協力いただきました会員諸氏には、厚く御礼申し上げます。また、総務委員会では今後も会員諸氏へのサービス向上のため、会員諸氏のご意見に真摯に対応させて頂く所存です。今後とも皆様の忌憚のないご意見・ご要望をお聞かせ下さい。(総務委員長 加山晴猛)

ニュース

■ 近畿ブロック会議を開催

近畿ブロック会議が、10月14日(火)に、和歌山市内で開かれた。福井、滋賀、京都、奈良、大阪、和歌山、兵庫の各協会が、「経営革新等認定支援機関、地域プラットフォームの活動実績」「よろず支援拠点との協力状況」「都道府県協会設立2年経過後の現状と課題」等について報告および意見交換を行った。

■ 中小企業経営診断シンポジウムを開催

中小企業経営診断シンポジウムが、10月28日(火)、東京ガ

ーデンパレスで開かれた。翌10月29日(水)にはホテルグランドパレスで、診断協会60周年記念事業も行われた。当協会からは相良会長と伊藤康雄理事が参加した。

■ 調査研究事業に「創業支援」

今年度の兵庫県協会の調査研究事業に、「現在の創業支援事業内容と創業者のニーズとのギャップ調査をもとにした効果的な創業支援モデルについての提言」(責任者:志水功行氏)が選ばれた。

研究会スケジュール

問い合わせ先: 078(362)6000

● オープンセミナー(会員研修委員会主催)

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
2月6日(金) 18:30~20:30	神戸市産業振興センター901	日本銀行神戸支店長講演	日本銀行神戸支店長 野原 強 氏
3月15日(日) 13:30~19:00	兵庫県民会館902号室	企業内診断士祭り「わっしょい!」	「基調講演」 大阪経済大学経営学部 三島重顕准教授
※代表:高槻仁志			

● 診断技術向上研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
1月8日(木)	兵庫県民会館 会議室302	(事例企業の課題研究) 工場のネットワーク化	研究会員全員 その他、随時
2月12日(木)		事業承継 海外展開	
3月12日(木)		後継者育成 生産管理技術確立 など	
※開催日は原則、毎月第2木曜日。時間:18:30～20:30。 会場:兵庫県民会館内会議室。 ※連絡先:加山 晴猛 harukay@silver.ocn.ne.jp			

● 地域産業活性化研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
1月7日(水) 18:30~20:30	神戸市産業振興 センター	兵庫県下の観光地の 実情ヒアリング調査、 播但線沿線地域の 活性化策について	研究会員全員
2月4日(水) 18:30~20:30			
※開催日:原則、毎月第1水曜日 時間:18:30~20:30 ※連絡先:代表 大場一正 kohba@alles.or.jp (今年度の会員募集は締め切りました)			



編集後記

「多岐亡羊」という故事があります。意味は学問の道が細分化しすぎて真理を得がたいこと。転じて、いくつもの方針があるため、どれを選ぶべきか迷ってしまうことのたとえだそうです。話の発端は、逃げ出した一匹の羊を大勢で追いかけたけれど、分かれ道が多くて見失ってしまったという単純な話から来ているようです。我々診断士も企業経営の「多岐亡羊」に今年もおおいに悩まされ、またそれに果敢にチャレンジしていこうではありませんか。(通)

当協会の更なる発展と 会員診断士の活躍の場づくりを

一般社団法人兵庫県中小企業診断士協会会長 相良 紘



新年あけましておめでとうございます。

恒例のことですが、年が改まると何か新鮮な気持ちになります。会員の皆様におかれましても、新たな抱負を持って新年を迎えられたことと存じます。

現時点では平成27年度の予算はまだ成立していませんが、基本的な方向性は変わらないでしょう。

「地方創生」施策に期待

また、昨年11月には「まち・ひと・しごと創生法案」及び「地域再生法の一部を改正する法律案」の地方創生関連2法案が成立しました。日本経済を活性化させていくためには、大企業だけでなく地方の活力が必要であるとの考えに基づいています。これらを実行していく中で、国や自治体においても種々の施策が取られていくことでしょう。

私達『中小企業診断士』は、国の中小企業支援事業を効率的に推進し、中小企業の経営資源の確保を支援し中小企業の振興に寄与することを目的としていくことで資格が付与されています。その意味では、これから取られていく中小企業振興策の中で私達中小企業診断士の活躍の場も多数あると期待されます。

一昨年から当協会が取り組んできている「創業補助金兵庫県事務局」では、平成24年度補正事業で168事業者、平成25年度補正事業で85事業者の合計253事業者が採択されました。既に補助事業期間が終了し、補助金の確定・交付を行った事業者もありますが、これらの創業者の中には素晴らしいアイデアや熱意、行動力を持った事業者も多く見られます。数年後には事業が大きく成長して中堅企業に育っていくものもあると期待されます。また、本業務を推進していく中で多数の会員診断士のご協力を頂きありがとうございます。本年も採択者のフォローを中心に業務は継続して続きます。これらの業務を通して当協会が創業者の支援に大きく役立ってきたことは間違いのない事実です。引き続き皆様のご協力よろしくお願いします。

最後になりましたが、診断協会組織も各都道府県の協会が一般社団法人となり既に2年が経過しました。独立した法人格を有したことにより、当協会だけでなく他地区の診断協会もそれぞれにおいて活発な活動が取り組まれています。当協会においても、調査研究事業の実施や研究会の活動支援、会員診断士のスキルアップ、そして企業内診断士の方たちの情報交換の場づくり等様々な事業を実施していきます。これからも皆様のご協力、ご参加の程よろしくお願いします。

依然厳しい中小企業

昨年末に唐突に衆議院解散・総選挙が行われました。結果は与党の圧勝でした。ということは、平成27年度の政策も今までの延長線上で執行されていくことと思われます。

昨年4月に消費税が8%に引き上げられましたが、消費税の歴史を振り返ると、初めて導入(3%)されたのが平成元年、5%への引き上げは平成9年でした。導入当初の平成元々はバブル経済の頂点にあり、特に景気への影響はありませんでしたが、低成長時代に移行した平成9年の引き上げでは、一時期景気は減速しそれ以降デフレ経済の状態が長く続いています。昨年の引き上げ時点でも景気は一時的には冷え込むが回復に向かうのではといった見通しもはずれ、未だ経済はマイナス成長となっています。

また、超金融緩和政策により円安基調となっており、海外市場への輸出産業はプラス要因となっていますが、食料品や、原材料などの輸入に頼る産業には決してプラス要因とはなっていないのが現状です。

これら経済政策の判断は専門家に任せるとして、私達が支援する中小企業にとっては厳しい状態は依然として続いています。

成熟化社会の中、少子高齢化や人口減少といった状況下で日本経済の活力が低下しつつあると危惧されています。政府としても日本再興戦略を様々な施策を講じて実行しようとしています。その中では昨年8月に公表された平成27年度経済産業政策では、今後の中小企業・小規模事業者政策では以下の事項が掲げられています。

- (1) 被災地対策
- (2) 地域の中小企業・小規模事業者の活性化
- (3) 小規模事業者支援策の強化
- (4) 中小企業・小規模事業者のイノベーション推進
- (5) 創業・第二創業等へのきめ細かな支援
- (6) 消費税転嫁対策

年未 羊男

岩下 清(昭和18年生まれ)

03年1月号に次いで小職が掲載されるのは今回で2回目です。あれから12年経ったのです。

70歳の時に在籍していた会社のOB会報に「70歳はなってみるとまだまだ仕事もスポーツもできる」と書きましたがあれから2年経ちました。

97年に独立しましたが年金を受け取れる歳を経過し、この間に年2回ずつ好きな外国旅行ができていく境遇なので運も良かったし、独立したのは成功だったと思っています。

72歳となり確かに記憶力だけは衰えましたが、まだやれます。



現在中小小売業の経営指導をわずかに残ったところだけやっており、心から生き残って欲しいとの気持ちでやれるところまで継続するつもりです。

福島 繁(昭和18年生まれ)



40歳で診断士、55歳で協会入会、60歳から支部長4年担当、その後一会員です。

＜楽しかった事＞毎年の秋の支部旅行を楽しむ ＜努力した事＞フレンドリーで面白い協会を目指しFOCUS活動に熱中する ＜残念な事＞6年間続いた毎月の正副支部長レポートが消える ＜期待している事＞「プロコン育成塾」等の会員重視の事業をクリエイトして欲しい ＜これから挑戦したい事＞ひょうごオンラインワン経営(HOO)研究会等で相互研鑽を発展させたい。

初日の出、大阪平野に燦々(さんさん)と年明ける。「初夢や 今年やらねば やる年なし」 本年も宜しくお願い申し上げます。

塔筋 幸造(昭和30年生まれ)

十干と十二支を組み合わせた60を周期とする数詞が干支ということですが、自分がこの60年の周期を無事迎えることの意味を年男として感じています。

特にコンサルタントの仕事は、この経験が必要であり、またこの年を迎えることが出来たのは、恩師や先輩各位をはじめとする皆様のお陰と感謝しております。

仲間と起業して30年、好きな仕事をさせていただいたことへの感謝の気持ちを、起業や経営をされる方々へ伝えたいと強く思っています。

これからの自分は、少しでも皆様のお役に立つために精進して行きたいと決意を新たにしています。



西嶋 衛司(昭和30年生まれ)



独立して1年半となりました。住まい関連業界を中心に、「売上を上げること」と「人を育てること」をテーマに仕事をしています。昨年11月に天満橋に事務所を開設し、自宅兼職場状態を解消しました。通勤があると気持ちにメリハリができて、やっぱりいいですね!一見順調そうですが、会社員時代とはあれもこれも異なり、慣れないことの連続で悪戦苦闘の毎日です。今年はもし会社員を続けていたら定年の年です。多くの皆様のおかげで何とか回っている現在の業務を軌道に乗せ、50歳半ばで独立を目指す皆さんにアドバイスができるようになることを目標に日々の業務に励みます。

小林 知彦(昭和42年生まれ)

思い返すと38歳で独立して早や10年が経ちました。独立当初の目標「前職給与を超える」を達成するためガムシャラにやってきました。何とか1つ自分のスタイルが確立できたかなと思っています。プロコン育成塾で「3つの強み」を磨けと教わりました。節目の今年は新たな強みを磨くスタートの年にしたい。現在は故郷兵庫を離れ奈良に居住しています。兵庫に立ち寄る機会がほとんどない状態ですが、だからこそ離れて分かる「兵庫の良さ」を実感しています。3年後には兵庫へ帰る予定です。その時はもっと皆さんとお会いできることを期待しています。



柴崎 知己(昭和42年生まれ)



明けましておめでとうございます。今年は4回目の年男、コンサルタントとしては19年目、診断士としては3年目に突入致します。従来から実施している原価管理制度や業績管理制度の構築・導入コンサルティングに加え、昨年から診断士として中小企業の企業再生に取り組んでおります。これまでに5社の再生計画の策定にあたりましたが、再生の現場では幅広い知識と経験が求められ、日々研鑽の想いで取り組んでおります。今後も中小企業の皆様のお役に立てよう取り組んで参りたいと思います。会員の皆様どうぞ宜しくお願い致します。

橘 雅清(昭和42年生まれ)

明けましておめでとうございます。今後、意識していこうと考えていることが2つあります。1つ目は時間管理です。独立してからは、仕事、勉強、遊び、全て自由に融通は利きますが、なるべく計画的に時間を使いたいと考えています。2つ目は健康管理です。だんだんメンテナンスが必要な体になってきました。運動不足解消のためにも自転車を楽しむつもりです。今はソーリング車でのんびり散歩できればいいなと思っているぐらいですが、凝り性なのでそのうちバイクの自作にも手を染めることになると思います。今後ともよろしくお願いいたします。



西口 延良(昭和42年生まれ)



新年、あけましておめでとうございます。現在、私は兵庫県中小企業再生支援協議会のサブマネージャーとして、金融支援を通じた中小企業の事業再生に取り組んでいます。消費税アップや円安などの外部環境の影響を受け、業績悪化と資金繰りに苦慮する中小企業も多くなっており、少しでもお役にたてればと微力ながら頑張っております。今年は年男でもあり、チャレンジ精神を持って挑戦する年にしたいと思っておりますので、会員皆様の変わらぬご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

西本 文雄(昭和42年生まれ)

皆さま、明けましておめでとうございます。早いもので独立から約5年間、兵庫県内の企業数社に体当たりの支援を継続すると共に、神戸セクションなど地域活性化に取り組んで参りました。それらの活動が地域経済に直接つながっているハズだと信じながらも、まだまだ足りない自身の能力に反省の毎日です。どれだけ支援先の売上・利益が上がっても、全く改善が進まない苦しい現場でも、「街を元気にする」という『信念』だけは、今年も徹底して守りたいと考えています。『新年』のご挨拶だけに、苦笑。本年もどうか宜しくお願い致します。

ホームページアドレスは、<http://cotnas.co.jp> です。



藤本 正一(昭和42年生まれ)



2013年4月に診断士登録をして、昨年の10月から兵庫県の診断士協会に入会させていただきました。昨年の5月まで家電メーカーの半導体部門に勤務し、主にオーディオ関係の半導体を設計していましたが、現在は退職しモノづくり系の独立診断士を目指しております。本来はインドア派なのですが、3年ほど前からマラソンを始めました。調子に乗ってしまい、昨年はフルマラソンに3回出場したほか、100kmのウルトラマラソンにも挑戦し完走しました。次の年男までにフルマラソンを50回完走が目標です。今後ともよろしくお願い致します。

草譯貴博(昭和54年生まれ)

明石で一級建築士事務所 兼 中小企業診断士事務所を経営しています。近年はメガソーラーなど発電事業のコンサル・EPCに取り組み、全国で数多くの発電事業のキックオフに携わらせて頂きました。

今後の目標の1つには、電力小売完全自由化を目前に控え、これまで培った経験とネットワークを活かし、新たなビジネスを切り開くこと、またそのお手伝いをさせて頂くことに力を入れたいと考えております。

もう1つの目標としては、新たな価値をデザインで創造する会社として、本業である設計事務所の機能拡充につとめ、耐震改修・リノベーション工事など社会資本の一翼を担う建築物の再生にもこれまで以上に力を入れたいと思います。



横尾大輔(昭和54年生まれ)



2013年4月に診断士登録をして、翌年兵庫に入会しました。作文・小論文の添削という事業で二代目後継者として日々奮闘しています。診断士を目指したきっかけは、二代目として経営の勉強をするため、またお客様のお役に立てるためと思ったことでした。勉強した内容を多くの場面でいかすことができ、改めてこの資格の重要性を認識しています。また、診断士になってから、様々な人と出会い、本を出したり、ボランティア活動に参加したり、おいしいお酒を飲んだり色々な経験ができました。今後も診断士らしく活動していきますので、会員の皆様どうぞよろしくお願い致します。

中小企業診断士の目で見た中国事情 ①

優しく明るい よき隣人たち

兵庫県中小企業診断士協会
会員 上山 芳樹

プロローグ

2014年11月2日(日)に上海国際マラソンが開催された。日本に居たところからジョギングが好きで休日はジョギングを楽しんでいた。しかし大きな大会への出場はなく本当の趣味だったなかで、上海のランニングクラブのメンバーに励まされ初めて出場した大会がこの上海国際マラソン。取りあえずハーフに出場し完走のみを目標にしたが、知らないうちに楽しく上位3分の1に入ってゴールしていた。

中国(上海)に赴任して3年半、このように毎日いろんなことに出会いながらも何とか生活している。

こんな自分が何故異国の地で暮らせるのだろうか? 今まで管理部門中心で転勤もほとんどなかった人間が初めて味わった単身赴任の地がなんと異国の上海。でも現在で3年半の生活が続いている。これは自分と中国との相性が良かったことにほかならないと思われる。

上海に来て聞いた、ある機関のセミナーでの言葉が忘れられない。「あなたがこの地で困ったとき助けてくれるのは日本人ですか?中国人ですか?」答えははっきりしている。

上海に来て何もわからなかったころ、自宅付近をジョギングして転んでしまった。その時すれ違った中国人が駆け寄り手を貸してくれた。そして「大丈夫か?」と言わんばかりに声をかけてくれた。「ありがとう」と言えば、「どういたしまして」と笑って去って行った。中国人の優しさに遭遇する一瞬であった。

中国人の大半がそんな優しい人である。自分が赴任前と今とでは中国に対するイメージは全然違う。ほぼ毎日のようにマスコミで報道されている中国と現実とはかなりのギャップがあることを肌で感じている。決して中国国民の大半が野蛮な人間ではなく礼儀正しいまじめで楽しい国民であると。ただし、日本と中国とは元来隣接した国同士であり、お互いに長所より短所が見えてしまう言わば永遠のライバルであることは確かである。確かに2012年の尖閣諸島をめぐる領土問題の際には緊張が走った。上海でもデモ行進が自宅近く

まで行われ、飲食店のガラスは割られるなか、自宅待機の日も数日あった。でも大半の中国国民は冷静でありいつも通り優しくしてくれた。これには情報化社会が良い面でも悪い面でも作用していると思われる。一部の報道しかわからない中国人が日本人を悪者扱いしたり、多方面の報道をキャッチしている中国人は日本人の良い面を理解したりとの状況であり、中国に限らず日本でも同様の現象ではないかと思われる。

そのようななか、チャイナプラスワンと言われるように、日本の約26倍ある広い国土、10倍以上ある人口を持つ中国が、海外進出を目指すうえで避けて通れない状況は言うまでもない。そんな中国を自分なりに考えてみることにする。

1. 中国人はよく働く!?

日本人はよく働く民族として世界から評価されている。中国人はそれに比べて働きぶりは悪いと言われるが果たしてそうだろうか。

確かにこちらが真剣に話している際には平気であくびをする。ポケットに手を入れて聞いている。何も言わなければどこでも煙草を吸う。これは日本を訪れる中国人観光客でもよく見受けられる現象である。中国に住めばこれが日常茶飯事である。

しかし丁寧に説明し指導することによって、必死で働き思ったより早く完成品を作ってくれる。

結局はいかにコミュニケーションをうまくとってこちらの意見を聞かせるか、聞いてもらうかにある。ある時は叱りながら、またある時はほめながら、そして喜びは分かち合いながら。診断士流に言えば、いわゆるマネジメントである。

おかげで筆者の職場は毎日明るく、そしてやらなければならないことを、やりたいことを聞きながら進めることでかなりの成果を挙げてくれている。

2012年に体調を崩し1週間ほど寝込んだことがある。単身赴任は体調を壊せば大変である。そんなときに毎日病院への車の送迎、食事の差し入れ等々とフォローしてくれる優しさも持ち合わせている。

仕事の面でも個人の面でも優しさと明るさを持った中国人である。

2. 中国での買い物は安い? 高い?

中国の場合、中小商店であればほとんどが交渉による買い物である。

煙草も交渉次第。道端で交渉である。何度か会ううちに店主と知り合いになれば、かなり安価な金額で購入できる。

衣類も交渉次第。相手が日本人と思えば当初はかなり金額を要求する。これで負けてはいけない。「隣の店の半額提示を蹴っておたくで買う」「こちらの希望価格でなければもう帰る」といった仕草を見せながら交渉する。結果は希望価格の3分の1で済む場合がほとんどである。

食品はほとんどが量り売り。基本的には外食がほとんど(自炊できない)の自分だけに、ウィークデーは日本料理が多いが、休日は自宅近くの市場や食品街に行く。露店も多く昔の日本の雰囲気を楽しむことができる。中国饅頭や餃子の店などが立ち並び、最近では顔を覚えていてくれて5個買えば1個のサービス。果物やパンの量り売りでは端数の金額を切り捨てて売ってくれる。品質が良いかどうかは何とも言えないが、まだ腹痛等はおこしたことはない。

そんな反面、高級ブランド店に行けば日本より高い。特に自分のような人間にとっては日本のアウトレットの方がよほど安い。それでも富裕層はそれらを身に着け颯爽と歩いている。

中国での買い物も使い方次第かな。

3. やっぱり信頼される日本の品質

中国で家を借りる場合、必要な家具や家電製品のほとんどは家主が設置済みである。タンスやベッドからテレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン等である。

入居の際は「なんと素晴らしい」と感激したが、エアコンは何度も壊れて修理、洗濯機は脱水の際にベランダを暴れまわる状況。全自動洗濯機と称しながら洗濯中は監視が必要。

電燈は電球中心、豪華そうに見えるシャンデリアは何日かに1つずつ電球が切れ、切れるたびに憂鬱になってくることも。そのたびに修理に来てくれるが、2、3日でまた元の状態。

そんななかで少しずつ交換してもらうことに。それも日本製の家電製品に。おかげで今は快調に。家主は「今回は日本製にしたから大丈夫!」とこんな調子である。

日本の製品は、見た目では一緒であっても使う立場になってきめの細かいところまで注意し製造している。

中国人観光客が土産に買って帰るのは炊飯器が多い。「日本製でコメを炊くと本当においしいよ」。

当社は建設機械メーカーであるが、製品群は仕様書の記載以上の能力を発揮し、中国産と差別化できている。また省エネ、環境対応も行っており中国市場に好評である。このようにおもてなしに代表されるユーザーへの気配りができる製品は、多少高くても十分に評価されている。

中国に来て改めて日本では常識となっていた日本製品の素晴らしさを痛感するこの頃である。

4. 最後に

色々あるが国際化を進めるうえで中国はまだ日本の企業の入り込めるチャンスがあると思われる。

日本のきめ細かい技術力、おもてなしの精神を持つサービス力を駆使すれば中国市場はまだ魅力のある市場である。

この誌面をご覧になり中国の市場の魅力を少しでもわかっていただければ幸いです。

「2015年は中国への進出の年」としてはいかがだろうか。

今後本年は3回にわたって連載させていただく予定である。

読者の皆様に少しでも中国市場を紹介し続けていきたいと思う。

最後まで読んでくだされば幸いです。

上山 芳樹(うえやま よしき)

兵庫県神戸市出身。大学卒業後、建設機械メーカーに入社。主に財務、企画部門に携わり2011年7月から上海の現地法人に向。現在に至る。1999年中小企業診断士登録。趣味は読書とジョギング。座右の銘は「面白き事なき世を面白く」で、色んな出会いを大切にしている。今回の中国上海勤務により中国の現地スタッフはもちろん、同じく上海で働く日本人との友好を深め幅広い出会いを楽しんでいる。



上山氏と職場の仲間

飲食店の多店舗展開と自社商品の売上拡大

診断技術向上研究会 会員 植田 訓行

診断技術向上研究会は、平成25年度の活動として有限会社ムッシュ(本社:姫路市、代表取締役:治田幸雄氏)にご協力頂き、飲食店経営についての事例研究をさせていただきました。



治田幸雄社長

取り組みの経緯

有限会社ムッシュは、有名なカフェレストラン「Cafe de Muche 〜カフェ・ド・ムッシュ」(網干店、新在家店、姫路店)を姫路市内で3店舗展開しています。また、同社の知名度を一躍全国的にするきっかけとなったのが、テレビ番組「秘密のケンミンSHOW」で姫路地域の朝の定番として「アーモンドバタートースト」が紹介され、同社が取材を受けたことです。その後、いくつかの番組で紹介され注文が殺到しました。現在ではこの商品の製造販売が、カフェレストラン事業と同様、中心事業の一つとなっています。

現社長が創業され、苦勞されながらも「全て手作り! 80種類以上の洋食メニューを揃え朝から晩まで、気軽に来店でき、1,000円でおなか一杯に満足できる」店になることをモットーにされています。姫路でモーニング、ランチ、食事ならムッシュにということで、客席は絶えず賑わっています。

しかし、これまで行ってきた事業運営について、外部の経営専門家からどのように評価できるのか話を聞いてみたいとのことで今回の取り組みを行うことになりました。

研究会での取り組み内容

同社の治田社長に神戸で開催する研究会にお越し頂き、創業時からの経営に対する想いや従業員との家族的なつきあいによる成長の流れをお聞きすることができました。現在、店長として店舗運営を任されているご長男を将来の承継者とするとき、ムッシュをどのような経営のスタイルにするべきなのかが、社長が一番お知りになりたいことであると判断しました。

手づくりでボリュームがありリーズナブルなメニューの充実、地域住民と密接な接客サービスの提供など経営面では様々な工夫ができていました。さらに具体的

な財務の数字から経営の実態がどのように推移しているのかご理解いただくため、3年分の財務諸表をベースに、店舗ごとの売上・原価などを経営判断の材料として活用できる見やすい資料を作ることになりました。

同社のSWOT分析をし、財務内容や事業運営、店舗オペレーションに不備と思われる点や将来問題となりそうな点について仮説を立て、仮説検証のため何度か店舗訪問し、実際の事業運営を確認するとともに、社長のみならずスタッフからもヒアリングも行いました。

その上で、研究会において侃々諤々(かんかんがくがく)と意見を出し合い、解決策や善後策をA約20ページの「有限会社ムッシュへの提言」として治田社長へご提案させていただきました。

1年間を振り返り

治田社長からは、提案した仕入方法の効率化、POSレジデータによる売上・顧客分析、店舗オペレーションチェックなどにより「これまで見えていなかった事業の具体的な改善策が分かってきたので、事業承継までに行うことが明確になった」と言って頂きました。

今後も「カフェ・ド・ムッシュ」がさらにご発展されるようお祈りしています。



カフェ・ド・ムッシュ
網干店



アーモンドバター
モーニングセット

委員会報告

26年10月～12月

● 会員研修委員会

委員会開催日	主な議題
10月15日(水)	オープンセミナー(日銀神戸支店長講演など)の準備の打ち合わせ
11月19日(水)	企業内診断士祭り「わっしょい」の運営企画の進捗確認・準備など
12月17日(水)	調査研究事業(創業支援)に関する進捗と委員会の対応検討など
【事業報告】 ・会員研修委員会は、診断士協会々員の資質・能力の向上と企業内診断士の協会活動への参画の場を提供するために、本年度は調査研究事業・企業内診断士祭り「わっしょい」・オープンセミナー(ものづくりセミナー・日銀支店長講演など)のイベント・セミナーを実施しています。会員の皆さんがイベント・セミナーに参加されると共に、会員研修委員と一緒に企画・運営にも参画して頂くようお願い致します。	

● 広報委員会

委員会開催日	主な議題
10月14日(火)	・診断ひょうご1月号コンテンツ検討 ・診断ひょうご新企画の検討
11月25日(火)	・診断ひょうご1月号校正
【事業報告】 診断ひょうごの企画、校正作業と診断ひょうごの新企画を検討した。また、担当責任者の確認を行った。	

● 総務委員会

委員会開催日	主な議題
10月15日(水)	平成26年度理論政策更新研修の総括 平成26年度経営診断実務研修の進捗状況について 会員基本データ更新作業の進捗状況について 社員総会開催日に関するアンケート調査について
11月12日(水)	会員基本データ更新準備作業の進捗状況について 社員総会開催日に関するアンケート結果報告と対応の検討
【事業報告】 ・社員総会開催日に関する意識調査を実施した。 ・会員基本データ更新のための調査を実施した。また、会員諸氏に新会員名簿を作成・配布した。	

● 受託開発センター

委員会開催日	主な議題
10月 8 日(水)	今年度の受託事業の進捗状況確認
12月10日(水)	今年度の受託事業の進捗状況確認 来年度の受託事業の見通しについて
【事業報告】 ① 例年の継続事業:概ね例年規模で予算を若干上回るペースで進行中。 (兵庫県・神戸市・丹波市関係、金融機関関係、商工会・商工会議所関係の各案件) ② 本年度の新規案件 高度化事業診断 受託元の兵庫県と都度確認の上、ほぼ予定どおり進行中 ③ 来年度の受託事業見通し 12月に案件ごとに見通しを確認し、2月に向けて来年度予算を作る予定	

今後の予定

セミナー オープンセミナー「日銀神戸支店長が語る! 最近の金融経済情勢について」

兵庫県中小企業診断士協会では、下記の日程でオープンセミナー「日銀神戸支店長が語る! 最近の金融経済情勢について」を開催します。

このセミナーは「現在の世界経済の局面はどのような状況か?」「日本経済の現状はどうなっているのか?どうなるのか?」「地元兵庫県経済の現状と今後の課題は?」などの内容で、日本銀行神戸支店長の野原強氏のお話を伺うものです。経済の現状と今後の動きが気になる方は必見の内容です。どなたでも参加できるので、会員以外の方にも積極的にお声がけください。

- ◆ 日 時 平成27年2月6日(金) 18:30～20:30
- ◆ 場 所 神戸市産業振興センター901号室(神戸市中央区東川崎町1丁目8-4 ハーバーランド内)
- ◆ 講 師 日本銀行神戸支店長 野原 強氏
- ◆ 事前申し込み制 ◆ 定 員 100名(先着順) ◆ 参加無料(どなたでも参加できます!)

セミナー オープンセミナー 企業内診断士祭り「わっしょい!」

- ◆ 日 時 平成27年3月15日(日) 第1部 13:30～16:30・第2部 16:45～19:00
- ◆ 場 所 兵庫県民会館902号室
- ◆ 企画内容 第1部 診断士資格者としての専門能力発揮について
 - ① 基調講演
大阪経済大学経営学部 三島重顕准教授「経営学理論から見た企業内診断士の役割」
働き方の多様化が進むなか高度専門職(薬剤師、一級建築士、パイロットなど)を調査し経営的・社会的課題についての研究を行っている。これらの実績をもとに、企業内診断士が専門能力を発揮し社会的にも貢献するためにどのようにすべきか問題提起を行ってもらう。
 - ② 活躍する企業内診断士の発表
 - ③ ワールドカフェによる意見交換会
- 第2部 懇親会

協会行事 第4回社員総会について

第4回社員総会を平成27年5月21日(木)に開催します。

お申し込みは下記URLより専用フォームにてお申し込みください。また、FAX 専用申込用紙もございますので協会までお電話ください。 <https://ssl.form-mailer.jp/fms/ebad49e4275293>